

YAMAHA
ミキシングコンソール
MG10XU MG10X MG10
取扱説明書

ごあいさつ
 このたびは、ヤマハミキシングコンソールMG10XU / MG10X / MG10をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。MG10XU / MG10X / MG10 のさまざまな機能を十分にご利用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになったあとも、大切に保管いただけますようお願いいたします。
 ・本書では、MG10XU独自の内容を「MG10XU」、MG10X独自の内容を「MG10X」、MG10独自の内容を「MG10」で示します。これらのロゴがない場合、共通の内容です。
 ・本書では、特にことわりがない場合、イラストはMG10XUを使用しています。
 ・本書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
 ・SteinbergおよびCubaseは、Steinberg Media Technologies GmbHの登録商標です。
 ・その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

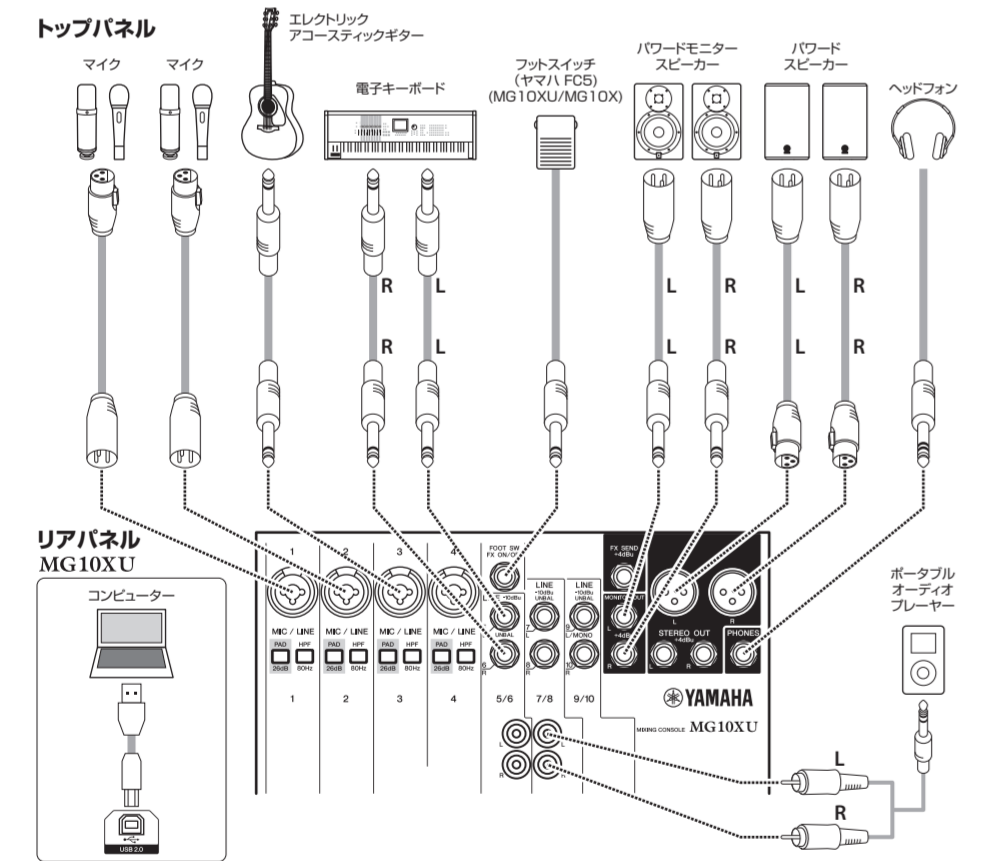
- 付属品(お確かめください)**
- 電源アダプター
 - 安全上のご注意：ご使用前に、必ずお読みください。
 - Technical Specifications(英語のみ)：ブロック図、寸法図、一般仕様、入出力仕様が記載されています。
 - CUBASE AI DOWNLOAD INFORMATION(MG10XUのみ)：Steinberg DAWソフト[Cubase AI]をダウンロードする際に必要なアクセスコードが記載されています。ダウンロード、インストール手順、および設定方法については、下記のヤマハウェブサイトをご覧ください。
https://www.yamahaproaudio.com/mg_xu/
 - 取扱説明書(本書)：保証書は裏面にあります。

クイックスタートガイド

STEP 1 スピーカー、マイク、楽器などを接続する

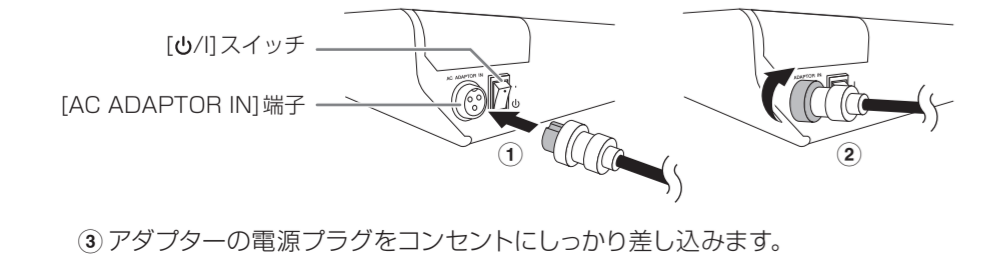
- 1 スピーカー、マイク、楽器など、本体に接続するすべての機器の電源をオフにします。
- 2 下記の接続例を参考にして、スピーカー、マイク、楽器などを接続します。

接続例



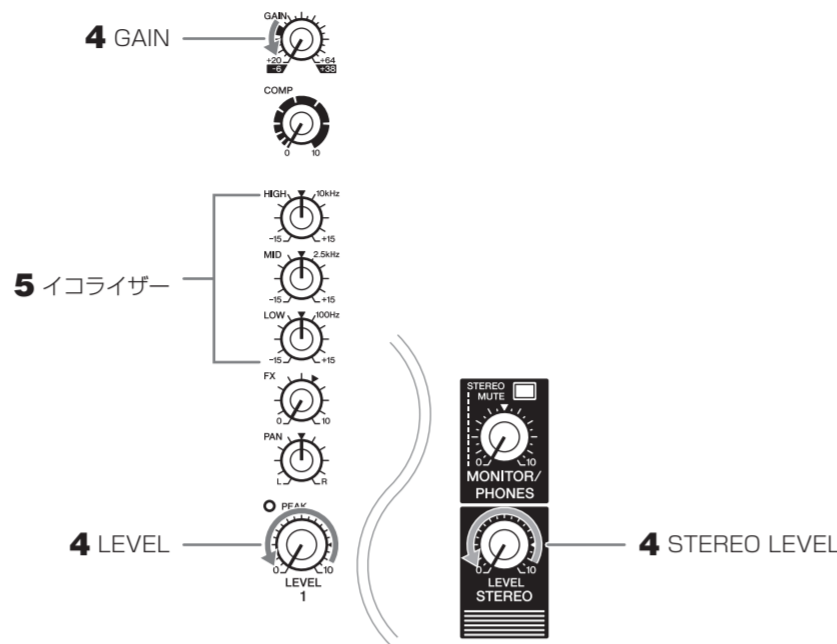
STEP 2 スピーカーから音を出す

- 1 本体リアパネルの[☐/|]スイッチが[☐]側(電源が切れている状態)に倒れていることを確認します。
- 2 付属の電源アダプターのプラグの溝を上向きにして、[AC ADAPTOR IN]端子に差し込みます。② 固定リングを時計回りに回して固定します。

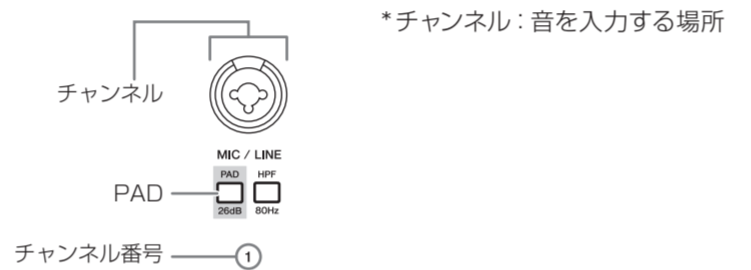


③ アダプターの電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。

- 3 本体のすべてのスイッチが押されていないこと(■)を確認します。
- 4 [GAIN]つまみ(白)、[LEVEL]つまみ(白)、[STEREO LEVEL]つまみ(赤)を左に回しきります(最小にします)。
- 5 イコライザーつまみ(緑)をセンター位置「▼」に合わせます。



- 6 チャンネル 1 ~ 4 に出カレベルの大きい機器(例:CDプレーヤー、電子キーボード)を接続したときは、各チャンネル*の[PAD]スイッチをオン(■)にします。



*チャンネル：音を入力する場所

NOTE コンデンサーマイクを使用する場合は、[PHANTOM +48V]スイッチをオン(■)にしてください。



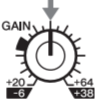
- 7 パワードスピーカーやアンプの音量が最小に設定されていることを確認します。
- 8 (マイク)、(楽器)、(オーディオ機器) ➡ 本体の[☐/|]スイッチ ➡ (スピーカー)の順に電源をオンにします。

ご注意 スピーカーから大きなノイズが出ないようにするため、上記の順に電源を入れてください。電源をオフにするときは、逆の手順で行なってください。

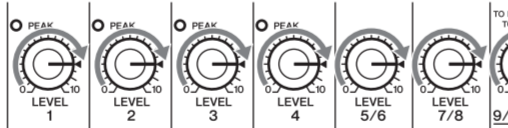
- 9 [STEREO LEVEL]つまみを「◀」の位置に合わせます。



- 10 マイクを接続したチャンネルの[GAIN]つまみを 12 時の位置に合わせます。



- 11 使用する各チャンネルの[LEVEL]つまみを「◀」の位置に合わせます。



- 12 マイク、楽器、オーディオ機器で音を出しながら、パワードスピーカーやアンプ側の音量を、必要な音量までゆっくり上げます。

NOTE 音が出ない場合や音が歪んでいる場合は、手順 13 の下にあるおまみをご覧ください。

- 13 [LEVEL]つまみを回して、各チャンネル間の音量バランスを調節します。以上で完了です。

NOTE 音量は、[PAD]、[GAIN]、[LEVEL]の3つの機能を使って調節します。[PAD]スイッチと[GAIN]つまみは一度設定したらあまり触らず、通常、音量は[LEVEL]つまみを使って調節します。各機能について詳しくは「各部の名称と機能」をご覧ください。

■ 音が出ないときは

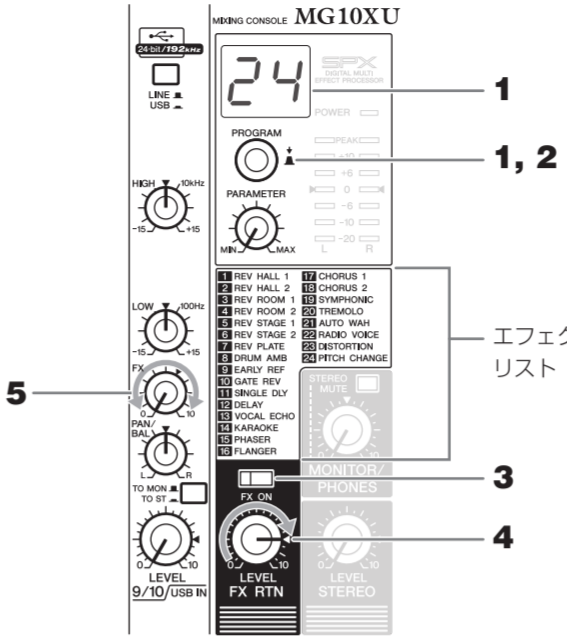
- ・ [PAD]スイッチがオン(■)になっていませんか? オフ(■)にしてください。
- ・ [GAIN]つまみが十分に上がっていますか?
- ・ 楽器やオーディオ機器の音量を上げてください。

■ 音が歪むときは

- ・ [PAD]スイッチがオフ(■)になっていませんか? オン(■)にしてください。
- ・ [GAIN]つまみが上がりすぎていませんか? つまみを左に回して音量を下げてください。
- ・ 楽器やオーディオ機器の音量を下げてください。

エフェクトをかける MG10XU MG10X

MG10XUとMG10Xは、ヤマハマルチエフェクターSPXシリーズと同クラスのエフェクトを内蔵しています。下記の手順でエフェクトをかけることによって、バリエーション豊かな音作りができます。



- 1 [PROGRAM]つまみを回して、エフェクトプログラムリストから目的のエフェクトプログラム番号を選びます。選択中のエフェクトプログラム番号がディスプレイに点滅表示されます。

NOTE エフェクトプログラムの詳細は、下の「エフェクトプログラム一覧」をご覧ください。

- 2 [PROGRAM]つまみを押して決定します。目的のエフェクトプログラムが選択されます。
- 3 [FX ON]スイッチをオン(■)にします。
- 4 [FX RTN LEVEL]つまみを「◀」の位置に合わせます。
- 5 エフェクトをかけたいチャンネルの[FX]つまみを回して、エフェクトのかけ具合を調節します。

エフェクトプログラム一覧

番号	プログラム	パラメーター	エフェクトの内容
1	REV HALL 1	Reverb Time	コンサートホールなどの広い空間の響きをシミュレートしたリバーブ(残響音)です。
2	REV HALL 2	Reverb Time	
3	REV ROOM 1	Reverb Time	小さな空間(部屋)での響きをシミュレートしたリバーブです。
4	REV ROOM 2	Reverb Time	
5	REV STAGE 1	Reverb Time	
6	REV STAGE 2	Reverb Time	広いステージをシミュレートしたリバーブです。
7	REV PLATE	Reverb Time	鉄板の響きをシミュレートしたリバーブです。硬めの残響感が得られます。
8	DRUM AMB	Reverb Time	ドラムセットに適した短めのリバーブです。
9	EARLY REF	Room Size	残響の初期反射音(ER)のみを取り出したエフェクトです。リバーブよりも派手な効果が得られます。
10	GATE REV	Room Size	残響音を途中で遮断して得られるエフェクトです。
11	SINGLE DLY	Delay Time	同じ音が1度だけ繰り返されるエフェクトです。ディレイタイムを短くするとダブリングの効果が得られます。
12	DELAY	Delay Time	遅延させた信号を複数度付加する、いわゆるフィードバックディレイです。
13	VOCAL ECHO	Delay Time	ボーカル用途に最適なエコーです。
14	KARAOKE	Delay Time	カラオケに使用するのを意識したエコーです。
15	PHASER	LFO(*)周波数	音の位相を変化させて、音にうねりを加えます。
16	FLANGER	LFO(*)周波数	ジェット機の昇り降音のような、うねりの効果を加えます。
17	CHORUS 1	LFO(*)周波数	異なる遅延時間の音を複数加えて、音に厚みを加えます。
18	CHORUS 2	LFO(*)周波数	
19	SYMPHONIC	LFO(*) Depth	音を多重化することで厚みのある響きを加えます。
20	TREMOLLO	LFO(*)周波数	信号にゆれるような効果を加えます。
21	AUTO WAH	LFO(*)周波数	周期的に変化するワウ効果を加えます。[PARAMETER]つまみで、ワウフィルターを制御するLFO(*)の周波数を調整できます。
22	RADIO VOICE	Cutoff Offset	信号をAMラジオ風のローファイな感じにするエフェクトです。[PARAMETER]つまみで、強調する周波数帯域を変更できます。
23	DISTORTION	Drive	音を歪ませた、いわゆるディストーションの効果を加えます。
24	PITCH CHANGE	Pitch	信号のピッチ(音程)を変化させた効果を加えます。

* LFO: Low Frequency Oscillator(低周波発振器)の略です。別の信号を周期的に変化(変調)させる場合に使います。

困ったときは?

- 電源が入らない**
- 電源アダプターをコンセントに正しく接続しましたか?
 - 電源プラグを奥まで差し込みましたか?
- 音が出ない**
- パワードスピーカーやパワーアンプの電源をオンにしましたか?
 - マイクなどの外部機器やスピーカーを正しく接続しましたか?
 - 接続ケーブルがショート(断線)していませんか?
 - 各チャンネルの[GAIN]つまみ、[LEVEL]つまみ、および[STEREO LEVEL]つまみを適切に調節しましたか?
 - [PAD]スイッチがオン(■)になっていませんか? スwitchをオフ(■)にしてください。音源からの音量が小さい場合、オン(■)にしていると、音が聞こえないことがあります。
 - [STEREO MUTE]スイッチがオン(■)になっていませんか? (MG10XU、MG10X) オン(■)にすると、ステレオバスの音がミュートされるため、[MONITOR OUT]端子/[PHONES]端子からは音が出ません。

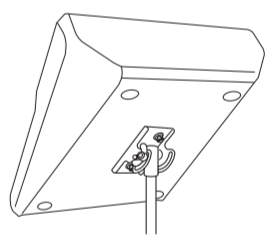
- 音が歪む、雑音が入る**
- [PEAK]LEDが点灯していませんか? 各チャンネルの[GAIN]つまみを下げたり、[PAD]スイッチをオン(■)にしたりしてください。
 - 各チャンネルの[GAIN]つまみ、[LEVEL]つまみ、または[STEREO LEVEL]つまみが上がりすぎていませんか?
 - レベルメーターの[PEAK](赤)が点灯していませんか? 各チャンネルの[LEVEL]つまみや[STEREO LEVEL]つまみを調節してください。
 - 本体に接続した機器の音量が大きすぎませんか? 接続した機器の音量を下げてください。
 - [TO MON]■/[TO ST]■スイッチが[TO ST]■になっていませんか? (MG10XU、MG10X) DAWソフトを使用している場合、[TO ST]■にすると、DAWソフト上の設定によってはループが形成されてハウリングが起こる場合があります。コンピューターを経由した音を聞きながら録音する場合は、必ず[TO MON]■に設定してください。

- ボーカルやスピーチの声をはっきりさせたい**
- [HPF]スイッチをオン(■)にしてください。音声クリアになります。
 - イコライザー(EQ)つまみを調節してください(例: LOWを下げる、HIGHを上げる)。

- エフェクトがかからない (MG10XU、MG10X)**
- [FX ON]スイッチをオン(■)にしましたか?
 - [FX RTN LEVEL]つまみを適切に調節しましたか?
 - 各チャンネルの[LEVEL]つまみと[FX]つまみは上がっていますか?

マイクスタンドへの固定

サードパーティー製のマイクスタンドアダプターを使って、右のイラストのように、本体をマイクスタンドに固定できます。サードパーティー製のアクセサリについては、ヤマハプロオーディオウェブサイトをご参照ください。
<https://www.yamahaproaudio.com/>



一般仕様

0 dBu = 0.775 Vrms シグナルジェネレーターの出カインピーダンス: 150 Ω
 特に指定のない場合、ツマミはノミナル位置。

周波数特性	入力チャンネル → STEREO OUT	+0.5 dB / -1.0 dB (20 Hz ~ 48 kHz), 1 kHz @ ノミナル出力基準, GAINツマミ: 最小	
全高調波歪率 (THD+N)	入力チャンネル → STEREO OUT	0.02 % @ +14 dBu (20 Hz ~ 20 kHz), GAINツマミ: 最小 0.003 % @ +24 dBu (1 kHz), GAINツマミ: 最小	
ハム & ノイズ *1	入力換算ノイズ	-128 dBu (モノラルインプットチャンネル, Rs: 150 Ω, GAINツマミ: 最大)	
	出力残留ノイズ	-102 dBu (STEREO OUT, STEREO LEVELツマミ: 最小)	
クロストーク (1 kHz) *2		-83 dB	
入力チャンネル		10チャンネル: モノラル(MIC/LINE): 4, ステレオ(LINE): 3	
出力チャンネル		STEREO OUT: 2, PHONES: 1, MONITOR OUT: 1, AUX(FX) SEND: 1	
バス		STEREO: 1, AUX(FX): 1	
入力チャンネル機能	PAD	チャンネル1~4 26 dB	
	HPF(ハイパスフィルター)	チャンネル1~4 80 Hz, 12 dB/oct	
	COMP	チャンネル1~2 スレッシュホールド: +22 dBu ~ -8 dBu, レンソ: 1:1~4:1, 出力レベル: 0 dB ~ -7 dB, アタックタイム: 約25 msec, リリースタイム: 約300 msec	
	EQ(イコライザー)	チャンネル1~9/10	HIGH: ゲイン: +15 dB / -15 dB, カットオフ周波数: 10 kHz シェルビング
		チャンネル1~4	MID: ゲイン: +15 dB / -15 dB, 中心周波数: 2.5 kHz, ピーキング
	チャンネル1~9/10	LOW: ゲイン: +15 dB / -15 dB, カットオフ周波数: 100 Hz シェルビング	
レベルメーター	チャンネル1~4	イコライザー後の信号がクリッピング(+17 dBu)の手前3 dBに達すると点灯	
内蔵デジタルエフェクト (MG10XU / MG10X)	SPXアルゴリズム	24種類	
USBオーディオ (MG10XUのみ)	2 IN / 2 OUT	24種類	
ファンタム電源		+48 V	
電源アダプター		PA-10(AC 38 VCT, 0.62 A, ケーブル長 = 3.6 m)(またはヤマハ推奨の同等品)	
消費電力		22.9 W	
寸法(幅×高さ×奥行)		244 mm × 71 mm × 294 mm	
質量		MG10XU, MG10X: 2.1 kg, MG10: 1.9 kg	
オプション(別売)品		サードパーティー製マイクスタンドアダプター *3	
動作環境温度		0 ~ 40 °C	

*1 ノイズはA-weightingフィルターで測定。*2 1 kHz (バンドパスフィルター)で測定。
 *3 サードパーティー製のアクセサリについては、ヤマハプロオーディオウェブサイトをご参照ください。
<https://www.yamahaproaudio.com/>
 この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明しております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。その他の仕様については別紙の「Technical Specifications」をご覧ください。

トップパネル チャンネルセクション(入力部 ①～⑭)

① [MIC/LINE]モノラル入力端子(チャンネル1～4)

マイク、楽器、オーディオ機器を接続します。XLR、フォーンの両プラグに対応しています。

② [PAD]スイッチ

オン(▲)にすると、本体に入力した音が減衰されます。音が歪んでいるときや[PEAK]LED⑩が点灯する場合は、オン(▲)にしてください。

NOTE スイッチを切り替えるときは、ノイズが出る場合がありますので、[LEVEL]ツマミを最小「0」にしてから切り替えてください。

③ [HPF](ハイパスフィルター)スイッチ

オン(▲)にするとハイパスフィルターが働き、80Hz以下の低い音が取り除かれます。マイクが拾った振動や風切り音を軽減するため、マイクで人の声を入力するときは通常オン(▲)にします。

④ [GAIN]つまみ

チャンネル1～4の基準となる音量を決めます。強く歌ったときや強く弾いたときに[PEAK]LED⑩が一瞬点灯する程度につまみを調整します。

⑤ [COMP]つまみ

コンプレッサーのかり具合を調整します。つまみを右に回すと、スレッシュOLD、レシオ、出力レベルが同時に調整されます。

スレッシュOLD: +22 dBu ~ -8 dBu、レシオ: 1:1 ~ 4:1

出力レベル: 0 dB ~ +7 dB、アタックタイム: 約 25 ms、リリースタイム: 約 300 ms

⑥ [PHANTOM +48V]スイッチ/LED

スイッチをオン(▲点灯)にすると、[MIC/LINE]モノラル入力端子①のXLRプラグにDC+48Vのファンタム電源が供給されます。コンデンサーマイクを使用するときは、このスイッチをオンにしてください。

ご注意

ファンタム電源が必要な場合、スイッチをオフ(■)にしてください。

ファンタム電源をオンにする場合、本体や外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

- チャンネル1～4にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、スイッチをオフにする。
- スイッチをオンにしたまま、チャンネル1～4でケーブルの抜き差しをしない。
- ファンタム電源のオン/オフは、チャンネル1～4の[LEVEL]つまみを最小にした状態で行なう。

⑦ イコライザー(EQ)つまみ

[HIGH]高音域、[MID]中音域、[LOW]低音域のつまみを使って音質を調整します。音質調整が必要な場合は、「▼」(フラット)の位置に設定してください。

⑧ [FX](エフェクト)つまみ MG10XU MG10X

[AUX]つまみ MG10

[FX]: 各チャンネルから、内蔵エフェクトや[FX SEND]端子に送られる音量を調整します。

[AUX]: 各チャンネルから、[AUX SEND]端子に送られる音量を調整します。

⑨ [PAN]つまみ(チャンネル1～4)

[BAL]つまみ(チャンネル5/6、7/8)

[PAN/BAL]つまみ(チャンネル9/10)

[PAN]: ステレオバスに送る各チャンネルの音量バランスを調整し、音像を左右(ステレオL/R)のどの位置に定位置させるかを決めます。つまみが12時の位置にあるときは、ステレオバスL、Rに同じ音量で送られ、音像は中央に定位置します。

[BAL]: ステレオバスに送るステレオチャンネル(5/6～9/10)(L/R)の音量バランスを決めます。つまみが12時の位置にあるときは、ステレオチャンネル(L/R)の音がそれぞれ同じ音量でステレオバスL、Rに送られます。

[PAN/BAL]: [PAN]と[BAL]の両方の機能を備えています。[LINE](L/MONO)端子だけに音を入力した場合は[PAN]として、[LINE](L/R)の両端子に音を入力した場合は[BAL]として利用できます。

⑩ [PEAK]LED

入力した音およびイコライザー調整後の音量が大きすぎる場合(クリッピングの手前3dBに達する場合)に、点灯します。頻繁に点灯する場合は、[GAIN]つまみ④を左へ回して音量を下げてください。

⑪ [LEVEL]つまみ

各チャンネル間の音量のバランスを調整します。基本は「◀」の位置に合わせておきます。

⑫ [TO MON]■/[TO ST]▲スイッチ MG10XU MG10X

チャンネル9/10に入力した音の出力先を選択します。通常は[TO ST]▲に設定してください。ただし、MG10XUで、[USB 2.0]端子にコンピューターを接続して使用する場合は、「リアパネル USB セクション」の表にしたがって、用途によってスイッチを切り替えてください。

⑬ [LINE]ステレオ入力端子(チャンネル5/6～9/10)

電子キーボードやオーディオ機器などのラインレベルの機器を接続します。フォーン、RCAピンのプラグに対応しています。

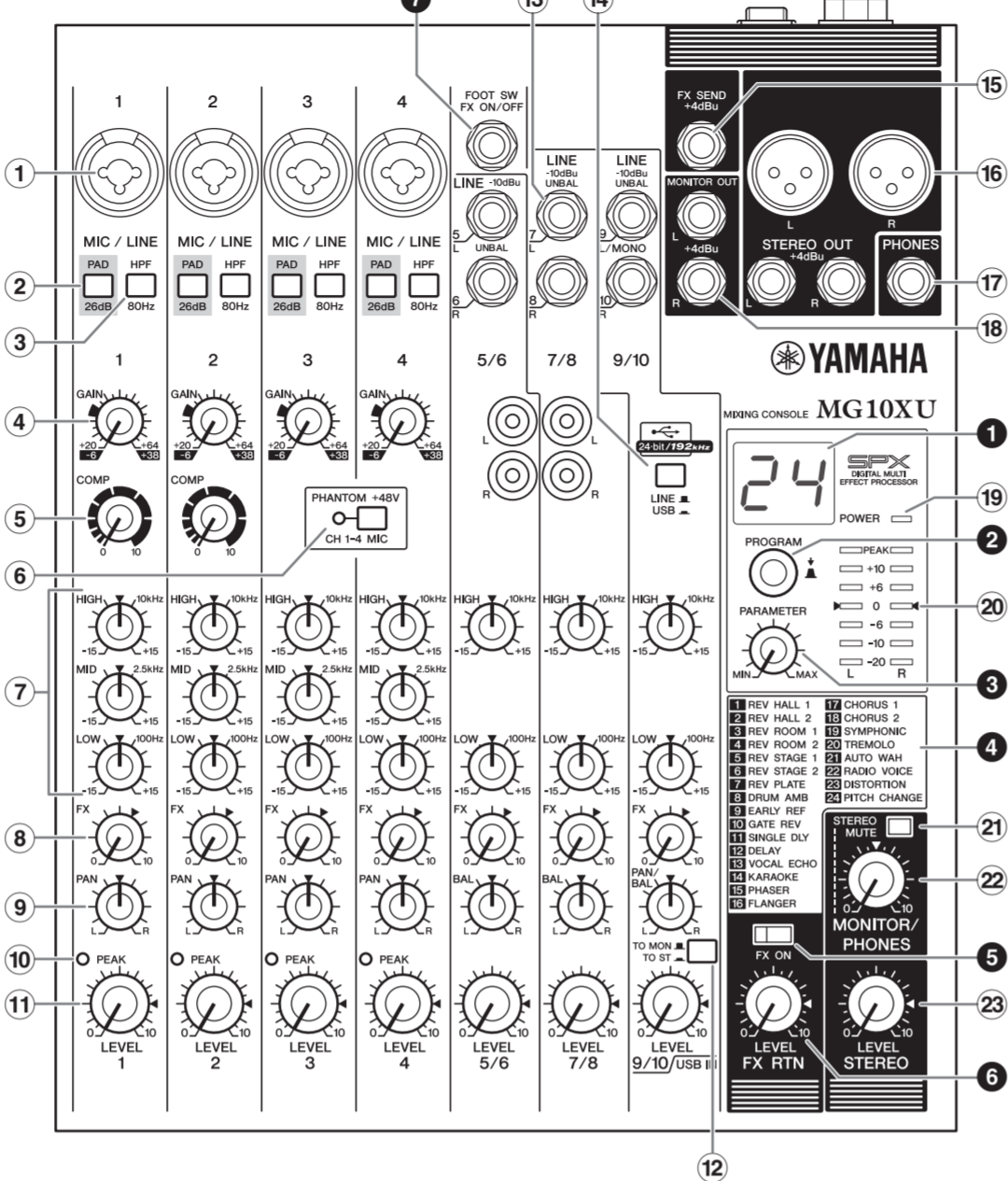
NOTE チャンネル5/6、7/8でフォーン端子とRCAピン端子の両方にプラグを接続した場合は、フォーン端子の入力が優先されます。

⑭ [LINE]■/[USB]▲スイッチ MG10XU

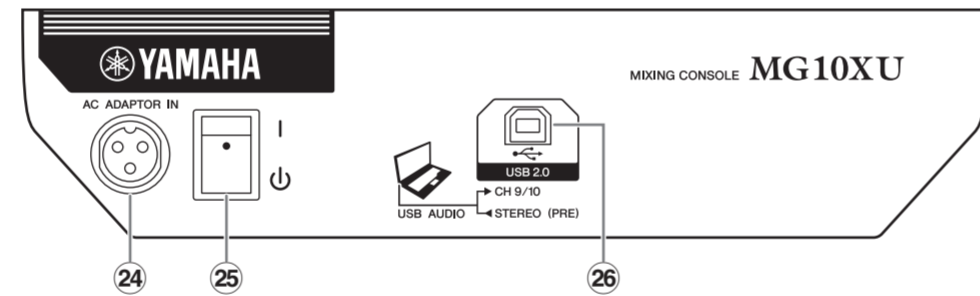
チャンネル9/10に入力する音のソースを、[LINE]■のときは[LINE]ステレオ入力端子⑬に、[USB]▲のときは[USB 2.0]端子⑳に切り替えます。

各部の名称と機能

トップパネル



リアパネル



リアパネル

⚠️ 注意

電源オン時にはパネルの温度が上昇(15～20℃)しますが、異常ではありません。周辺の温度が30℃を超える環境では、パネルが50℃以上になる場合がありますので、やけどなどにご注意ください。

㊄ [AC ADAPTOR IN]端子

付属の電源アダプターを接続します。

㊅ [O/I]スイッチ

電源のO(スタンバイ)/I(オン)を切り替えます。

I(オン)のときにトップパネルの[POWER]LED㊆が点灯します。

- NOTE**
- ・[O/I]スイッチのスタンバイ/オンを連続して素早く切り替えると、誤動作の原因になることがあります。[O/I]スイッチをスタンバイにしてから再度オンにする場合は、6秒以上の間隔を空けてください。
 - ・[O/I]スイッチがスタンバイの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは、必ず電源アダプターをコンセントから抜いてください。

トップパネル マスターセクション(出力部 ⑮～㉓)

⑮ [FX SEND]端子 MG10XU MG10X

[AUX SEND]端子 MG10

外部エフェクターや演奏者用のモニターシステムを接続します。[FX]つまみ、または[AUX]つまみで調節した音が出力されます。フォーンプラグに対応しています。

⑯ [STEREO OUT]端子

パワードスピーカーまたはパワーアンプを接続します。XLR、フォーンの両プラグに対応しています。

⑰ [PHONES]出力端子

ヘッドフォンを接続します。ステレオフォーンプラグに対応しています。

⑱ [MONITOR OUT]端子

オペレーター用モニターシステムなどを接続します。フォーンプラグに対応しています。

⑲ [POWER]LED

リアパネルの[O/I]スイッチ㊅をオンにする([I]側に倒す)と点灯します。

㉒ レベルメーター

[STEREO OUT]端子から出力されるレベル(音量)を、「PEAK」(+17)、「+10」、「+6」、「0」、「-6」、「-10」、「-20」dBの7段階で表示します。「PEAK」(赤)が点灯し続けたら、[STEREO LEVEL]つまみを左に回して音量を下げてください。

㉑ [STEREO MUTE]スイッチ MG10XU MG10X

オン(▲)にすると、[MONITOR OUT]端子や[PHONES]端子の出力からステレオバスの音がミュートされます。このとき、チャンネル9/10の[TO MON]■/[TO ST]▲スイッチ㊋を[TO MON]■にすることで、チャンネル9/10の音だけを聴くことができます。MG10XUを使うとき、スイッチの詳細い説明は、下の「リアパネル USB セクション」をご覧ください。

㉒ [MONITOR/PHONES]つまみ

[MONITOR OUT]端子と[PHONES]端子に出力される音量を調整します。

㉓ [STEREO LEVEL]つまみ

[STEREO OUT]端子から出力される全体の音量を調整します。

トップパネル 内蔵エフェクトセクション(出力部 ①～㉗) MG10XU MG10X

① ディスプレイ

㉘の[PROGRAM]つまみで選択したエフェクトプログラムの番号が表示されます。選択中は番号が点滅しますが、決定せずに一定時間が経過すると、前回選択した番号に戻ります。

② [PROGRAM]つまみ

内蔵エフェクトを1～24の24種類のエフェクトプログラムから選択します。エフェクトのかけ方は表面の「エフェクトをかける」欄をご覧ください。

NOTE [PROGRAM]つまみを押しながら回すことで(押しで決定することなく)、エフェクトプログラムを選択することもできます。

③ [PARAMETER]つまみ

選択したエフェクトプログラムのパラメーター(エフェクトの働き具合や変化の速さなど)を調整します。パラメーターの値はエフェクトプログラムごとに保存されます。パラメーターについては表面の「エフェクトプログラム一覧」をご覧ください。

NOTE エフェクトプログラムを切り替えたときは、[PARAMETER]つまみの位置に関係なく、前回そのエフェクトで設定した値が有効になります。いったん[PARAMETER]つまみを回すと、つまみの位置の値が有効になります。

④ エフェクトプログラムリスト

内蔵エフェクトプログラムのリストです。プログラムの詳細については、表面の「エフェクトプログラム一覧」をご覧ください。

⑤ [FX ON]スイッチ

オン(▲)にすると、内蔵エフェクトが有効になり、スイッチが点灯します。オン(▲)のときに、フットスイッチで内蔵エフェクトをオフにすると、スイッチのLEDが点滅します。

⑥ [FX RTN LEVEL]つまみ

内蔵エフェクトの音量を調整します。

⑦ [FOOT SW]端子

別売のフットスイッチ(ヤマハFC5などのアンラッチタイプ)を接続します。フットスイッチを接続すると、⑤の[FX ON]スイッチがオン(▲)に設定されているときに、内蔵エフェクトのオン/オフを足元で切り替えることができます。フォーンプラグに対応しています。

保証書

品名		ミキシングコンソール	
※品番			
※シリアル番号			
保証期間	本体	お買上げの日から1ヶ年間	
※お買上げ日		年	月 日
お客名	ご住所	様	
お名前	お名前		
お電話	お電話		
ご販売店様へ ※印欄は必ずご記入ください。			
保証書			
本書は、本書記載内容で無償修理を行う事を約するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買上げの販売店に修理をご依頼ください。ご依頼の際は、購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)をあわせてご提示ください。(詳細は下欄をご覧ください)			
※販売店	店名		
所在地			
電話			
株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部			
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41番12号 KDX箱崎ビル			
TEL. 03-5652-3850			

保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態(取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態)で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。
- ご購入品、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、ヤマハ修理ご相談センター*にお問合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書または購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、障害、異常電圧などによる故障及び損傷。
 - お客様のご要望により出張修理を行う場合の出張料金。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。
- この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものではありません。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、ヤマハ修理ご相談センター*にお問合わせください。
- ご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報は、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報は適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供するものではありません。
- その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

アフターサービス

お問い合わせ窓口

お問い合わせや修理のご依頼は、お買上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

●機能や取り扱いに関するお問い合わせ

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

0570-050-808
*固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は 03-5488-5447

受付時間 月曜日～金曜日 11:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

オンラインサポート <https://jp.yamaha.com/support/>

●修理に関するお問い合わせ

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

0570-012-808
*固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は 053-460-4830

FAX 03-5762-2125 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海)

06-6649-9340 西日本(北陸/近畿/四国/中国/九州/沖縄)

修理品お申込み窓口

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島 2丁目 1-1

JMT 京浜E棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1丁目 13-17

ナン1(本社ビル)7F

FAX 06-6649-9340

受付時間

月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

●販売元

(株)ヤマハミュージックジャパン PA営業部

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 41-12

KDX箱崎ビル

*名称、住所、電話番号、営業時間、URLなどは変更になる場合があります。

ヤマハ プロオーディオ ウェブサイト

<https://www.yamahaproaudio.com/japan/>

ヤマハダウンロード

<https://download.yamaha.com/>

ASCAMPAMPCCA14